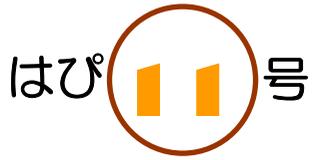


hap·py →go →luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 〈人の行動が〉のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。



2011年1月発行

【編集・発行】

さいたま市立中央図書館

さいたま市浦和区

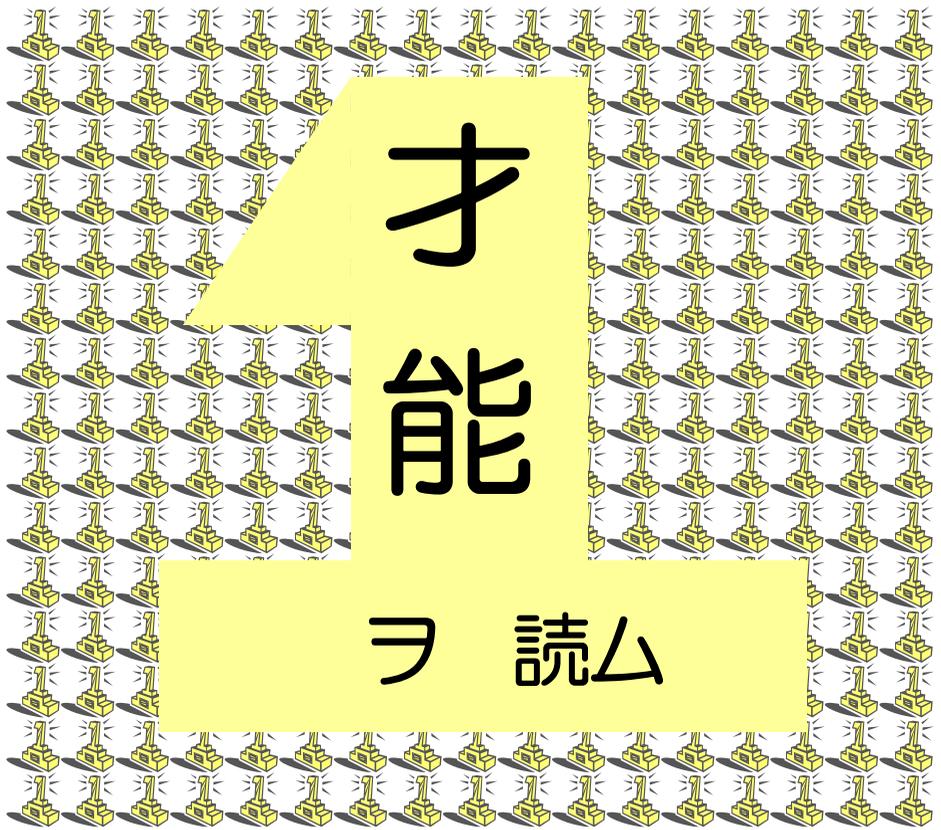
東高砂町 11-1

TEL 048-871-2100

FAX 048-884-5500

HP <http://www.lib.city.saitama.jp/>

携帯HP



才能

ヲ 読ム



『**算法少女**』 遠藤寛子作 ちくま学芸文庫 2006年

しろがね
 神田 銀 町に住む町娘のあきは、父から算法を習っていた。
 ある日、浅草寺のお参りで算額の絵馬を奉納する武士に会ったあきは、その絵馬に書かれた答えの誤りを正す。あきのうわさは広まり、算法好きの久留米藩主の耳にも届く。あきを姫の算法指南役にとの話が持ち上がるが、家臣の藤田は上方の算法を学ぶあきを快く思わない。そして、あきは藤田の弟子の娘と算法による勝負をすることになる。

江戸時代に出版された和算の本『算法少女』をもとに、各流派が知識を競い合う当時の隆盛と、やがて西洋数学が和算に取って代わる様子を描いた物語。

『**魔使いの弟子**』

ジョゼフ・ディレイニー作
 金原瑞人・田中亚希子訳
 東京創元社 2007年

「7番目の息子の7番目の息子」には特別な力があるらしい。その力を秘めたトムは魔使いに弟子入りした。魔使いは食屍鬼(ゲール)や精霊(ボガート)を扱う恐ろしい仕事。彼に与えられた最初の試験は幽霊屋敷でひと晩ひとりで過ごすことだった。

『**ぼくがバイオリンを弾く理由(わけ)**』 西村すぐり作 ポプラ社 2008年



カイトは初めて参加したバイオリンコンクールで、知人や友人が審査員にアピールするようなわざとらしいパフォーマンスで演奏をするのを見てしまった。結果は、彼らが入賞で自分は落選。実力や才能だけで、コンクールの勝敗が決まるわけではないことを知り、ショックを受けたカイトはバイオリンをやめようと決意する。しかし、見知らぬ女の人から手渡された一枚の楽譜との出会いが、故郷・広島に帰ったカイトの心を少しずつ変えていく。

「音楽ってなんだろう？ぼくがバイオリンを弾く理由はなんだろう？」カイトは、その答えを見つけることができるのか？



『**バレエダンサー**』上・下

ルーマ・ゴッデン作
 渡辺南都子訳 偕成社 1997年

ペニー夫妻に待望の女の子が誕生して2年後、デューンは生まれた。姉のレッスンについていくうち、バレエがたまらなく好きになる。指導者たちが才能に気付く一方、家族には理解されない日々。困難を乗り越えて少年デューンはダンサーの道を歩む。



『**アルジャーノンに花束を**』 ダニエル・キイス作 小尾芙佐訳 早川書房(ダニエル・キイス文庫) 1999年

チャーリーはパン屋で働く32歳。彼はかしこくなりたいと願っているが、知的障害を抱えているために、幼児並みの知能しかもっていない。

ある日、大学教授とチャーリーの先生であるアリスの提案で、頭が良くなる手術を受けることになる。同じ手術をしたねずみのアルジャーノンと検査の日々を送り、彼は急激に知能を高め、天才と呼ばれるようになる。そして人を愛することや、その心の卑しさを知っていくなかで、孤独と戦い始める。やがて彼は自分を待ち受ける運命を悟って…。

その他にこんな本が…

- ◆頭の中で想像した携帯電話が突然鳴り出し少年と話をする「Calling You」ほか2編をおさめた『きみにしか聞こえない』(乙一作 角川スニーカー文庫 2001年)
- ◆コミュニティのなかでただ一人記憶を受け継ぐ者として、役割を担うことになった少年の話『ギヴァー 記憶を注ぐ者』(ロイス・ローリー作 島津やよい訳 新評論 2010年)
- ◆アメリカの田舎を舞台に、特殊能力を持つ高校生男女5人が闘と戦う『ミッドナイトス』1~3(スコット・ウエスターフェルド作 金原瑞人・大谷真弓訳 東京書籍 2007年)
- ◆松井秀喜選手と長年行動をともにしてきた作者が、松井選手をはじめとする大リーガーたちを紹介した『道は自分で切りひらく』(広岡勲作 岩波ジュニア新書 2007年)などがあります。



『**だから、一流。**』

菅原亜樹子作 学研 2009年

さいたま市北区の「盆栽村」で活躍している盆栽家の山田香織さんをはじめ、レーサー、ヴァイオリニスト、落語家、ソムリエなど、多方面で成功をおさめた20人の実体験集。真の意味での才能とは何かを問う1冊。

ほんの
ひととき。



●● きっかけは先生の一言 ●●

ワシテはお絵かきがきれいな女の子。

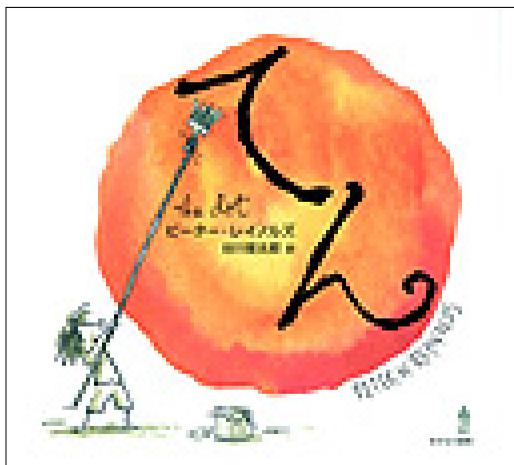
今日もお絵かきの時間が終わってもワシテの画用紙は真っ白。

せんせいが言った。「なにかしるしをつけてみて」

そこで苦しまぎれにてんを一つ。

次の週、ワシテが登校すると…。

小さなきっかけが才能の開花につながることを気づかせてくれる絵本。



『てん』

ピーター・レイノルズ作・絵

谷川俊太郎訳 あすなろ書房 2004年

●● きっかけは図書館にあり ●●

2011年がはじまりました。今年こそ新しいことを始めよう！と思ったら、ぜひ図書館に足を運んでください。今まで自分が知らなかったことも、図書館にくればたくさん見つけられます。いつも同じ棚の本ばかり眺めていませんか？隣の棚をのぞいてみたら、新しい発見があるかも。

今回は“才能”をテーマに7冊プラスおまけの4冊をお届けします。

勉強、スポーツ、芸術…いろいろな才能の物語をお楽しみください。

次回
予告

12号（4月発行）のテーマは「生き物」



「WEB版はび」 図書館HP「10代のページ」からGo！

このブックガイドは2000部作成し、1部あたりの印刷経費は3円（概算）です。